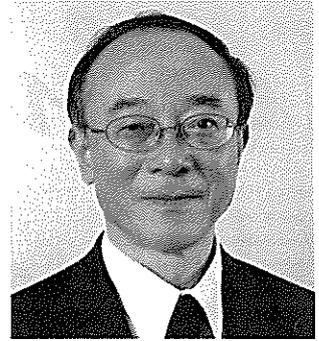


ご挨拶

皆様には日頃より本誌をご愛読いただき、厚く御礼申し上げます。



日本の金融不安も漸く最終段階にさしかかっていると見られており、日本経済も明るさと自信を取り戻しつつあるように見えますが、一方で、地域紛争は以前にも増して容易に世界的な社会不安の引き金になり、一瞬にして異なった経済シナリオへの転換がおきかねません。こうした不安定要因は経済のグローバル化とそれを支える情報の伝達速度の著しい変化が根底にあって、あらゆる意味でのボーダーレス化が進んでいることの現われです。業種を超えた新規参入はもはや通常の出来事になりました。その結果、ビジネスでは瞬時にしてパラダイムの変化が起こります。種々の規制が取り除かれつつある事が前提とはなりますが、技術的な革新がこうした現象を生む理由の一つになっているのは言うまでもありません。

かつての研究開発はどちらかといえば、経済戦線の後方部隊として存在しました。今日では研究開発は前線に位置しています。一方で技術の広いスペクトルは時間、あるいは秒の単位でスペクトルの変化を起こしています。企業での研究開発はどのスペクトルに照準を合わせるか、あるいは組み合わせるかが重要だと考えています。こうした考えの下に、本年末に町田に竣工を予定しております「M・R・Tセンター」に機能樹脂事業の製・販・技を集約するのにあわせ、従来、奈良の研究所にあったシール技術開発の一部も移転し、お客さまにより近い開発を進めることと致しました。

当社はおお客様へトータルシールソリューションを提供し続けます。この基盤となるのはシール技術、フッ素樹脂加工技術、金属製品加工技術であり、研究開発では、これらの強化とともに、先進的な技術を獲得し組み合わせて、お客様の満足創造にお役に立ちたいと願っております。

皆様におかれましては、技術のバルカーの今後を暖かく見守って下さいますよう、お願い申し上げます。次第です。

執行役員 先端産業開発部長 黒田 博之